

# 令和5年度 学校関係者評価書（川南町立東小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析及び改善策等	学校関係者評価		学校関係者委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
<b>I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進</b>							
1	家庭教育支援の充実に努める。 ・家庭教育学級、学級懇談会の活用 ・「早寝、早起き、朝ごはん」等生活リズム定着への啓発 ・保護者相談、個別面談の充実		3.1	・年に1回、オープンスクール時の学級懇談会で特別支援3学級の座談会を行っている。 ・6月の参観日には、メディアとの関わり方をテーマに全体講演会を実施し、啓発活動を進めている。 ・学校保健委員会の取組として、参観日の懇談会で毎回、生活リズムを話題にしているところである。 ・児童アンケート19では、早寝早起きメディアの時間が守れている児童は、52%であり、昨年度とほぼ変わらない傾向であった。次年度も継続して啓発していく。 ・月行事に位置付けている個別面談を夏季休業中に全家庭を対象に行っている。また、随時電話相談や個別面談を行い、家庭と連携した教育活動に取り組んでいる。		3.1	○ 家庭での望ましい生活リズムの定着に向け、今後とも継続した取組の充実が必要である。 ○ 保護者との相談体制が確立されている。今後も大切にしていきたい。
		2.9			3.2		
		3			3.0		
		3.3			3.0		
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。（PTA活動） ・保護者、地域と一体となった挨拶運動や読み聞かせ活動の推進 ・コミュニティ・スクール協議を基にした協働事業の推進		2.8	・見守り隊の方々との対面式は、感染症や暑さ対策からオンラインで行った。テレビでの紹介となったが、顔が大きく見られて子どもたちにしっかりと顔を覚えてもらうことができた。 ・児童アンケート13の「進んであいさつをしていますか」の項目では、「よくできている」と回答した児童が昨年度より増加していた。（R4：56%⇒R4：67%）少しずつではあるが、自ら進んであいさつする児童が増えてきている。 ・川南交番の協力をいただき、児童の下校安全指導を行っている。1年生の教室への移動交番やスクールコンサートの機会を通して、交通安全に関わる指導を継続的に行っている。 ・地域の方と協力した浪掛と伊倉の海岸清掃を7月に計画・実施した12月の花いっぱい活動には、学校から参加呼びかけを行い、たくさんの保護者、児童の参加が見られた。 ・保護者アンケート4の「コミュニティスクールとして学校と地域が協力して子どもたちを育てようとしているか」の項目において、「よくできている」「できている」を合わせた割合が昨年度より増えた。（R4：90%⇒R5：93%）		3.2	○ 校内でのあいさつがよくなってきている。 ○ 参観日の保護者の参加が多いことがすばらしい。 ○ 保護者の3～4割は振興会に加入していないので、地域の取組をあまり知らない実態がある。PTAの在り方も含め、今後考えていく時期にきているのかもしれない。
		3.2			3.5		
		2.3			3.0		
		2.8			3.2		
<b>II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人材を育む教育の推進</b>							
1	読書活動を推進する。 ・年間貸出冊数14,000冊以上の継続 ・読書に親しむ時間の確保		2.7	・水曜日の朝読書の徹底ができていなかった。 ・委員会児童を中心に読書量を増やすための取組（昼休みのイベントや読み聞かせなど）を行ったことにより、児童の図書貸し出し冊数は多くなっている。12月現在11892冊で、目標の14,000冊に到達できるペースである。 ・図書事務による「読み語り」など本に親しみながら読解力も高める取組を継続している。 ・地域、保護者の方の読み聞かせが充実しており、子どもたちもたいへん楽しみにしている。		3.4	○ 様々な取組により読書冊数が増えているようだ。今後とも本好きの子どもを育てる取組を継続してほしい。
		2.8			3.0		
		2.6			3.7		
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・学ぶ意欲の向上 ・基礎的学力の定着（CRTにおける全学年全国平均以上） ・授業等におけるICT機器の積極的活用		2.7	・児童アンケート14「一生懸命勉強しているか」については、「毎日している」と回答した児童が増えている。（R4. 56%⇒R5. 67%） ・宮崎大学の竹内教授にご講話いただき、RS（リーディングスキル）についての認知を深めた。唐中校区合同研修会で、全員授業を行い、読解力を高める授業実践を行った。 ・低学年は、週に1～3回ほどゴグトレを実施して、認知機能を高めるようにした。 ・各学期末・学年末の学びの確認の徹底を図っていく。 ・児童アンケート1「楽しく分かりやすく教えてくれるか」については、「とても分かりやすい」と回答した児童が増えている。（R4. 55%⇒R5. 64%） ・タブレットの活用方法（AIドリル等）についてさらに研修をしたい。 ・校時程を工夫することで、教材研究の時間を確保し、個に応じた指導の充実を図る。		2.8	○ 児童が熱心に学習に取り組んでいる。職員の年齢構成のバランスがよく、雰囲気もよいようである。このことが子どもたちへの落ち着いた前向きな学びへの姿勢につながっているのではないかと。 ○ 川南小では、学習ボランティアによる丸付け支援の取組で効果を上げているようだ。本校でも計画できるとよい。 ○ 図工の作品作りでは、良いものを見て学ぶことが大切である。絵の指導に長けた方を講師として招いて職員研修を実施してはどうか。
		2.7			3.0		
		2.7			2.7		
		2.7			2.8		
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・人権教育（命を大切に教育）に関する参観授業の設定 ・児童縦割り班活動の継続 ・教育相談の充実（友達に優しく接する児童の割合95%以上）		2.7	・6月参観日に全学年人権に関する授業を実施した。その中でも1年生は、動物愛護センターの方をお招きして、命を大切に教育を行い、保護者への啓発を図った。 ・夏季休業中に職員に向けてのピア・サポートについての研修を行った。 ・縦割り班による外そうじや校内清掃を計画的に行っている。 ・ハートフル委員会では、学担以外の視点からもたくさんの意見をいただき、効果的に運営できた。 ・児童アンケート3「先生は困ったときに話を聞いてくれるか」について「よくしてくれる」と回答した児童が増えている。（R4. 64%⇒R5. 70%） ・中部教育事務所から派遣されたスクールカウンセラーを活用し、相談活動を推進している。		3.2	○ 外部講師を招いて行う授業も大切であるが、日常の指導の積み重ねが重要である。
		2.7			3.3		
		2.7			3.2		
		2.7			3.2		

4	特別支援教育を推進する。 ・個に応じた指導・支援の充実  ・共生社会をめざした人権感覚の醸成  ・児童の自己肯定感の向上	2.7	2.7	・4月に個別の教育支援計画と個別の指導計画については、作成についての共通理解を図った。 ・7月の個人面談で、合理的配慮や個別の支援について保護者と合意形成を図り、押印をもらうようにした。 ・チーフコーディネーター、エリアコーディネーター、スクールカウンセラー等の外部機関を活用し、保護者と連携を図った。 ・放課後デイサービス・保護者との三者面談を行い、児童の支援体制について確認した。	3.3	3.2	○ 本校は、特別な支援を要する児童が多い実態がある。きめ細かに見届け指導をすることが求められる。
		2.7			3.0		
		2.7			3.3		
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・地域人材を活用したふるさと学習の推進  ・地域行事への積極的な参加	2.7	2.7	・5月に町バスを活用し全学年で地域について学ぶ「ふるさと学習」を実施した。昨年度作成した地域人材リストを活用し計画的に地域人材を活用することができた。 ・児童アンケート6「川南の学習」については、年々向上している。 ・5年生のお米学習では、JA青年部の方や農家の方をお呼びして、米作りの良さについて学びを深めた。 ・地域の海岸清掃活動、ゴミ拾い・花植え活動への呼びかけを行い、多くの児童の参加が見られた。	3.2	3.3	○ 公民館行事への積極的な参加の呼びかけを今年も行う。海岸清掃（7月）、盆踊り（8月）、ゴミ拾い・花植え活動（12月）、ウォークラリー（3月）  ○ 校内に地域行事を知らせる掲示板を整備する。
		2.7			3.3		
		2.7			3.5		
6	キャリア教育を推進する。 ・キャリア教育の視点を生かした授業実践 ・キャリアパスポートを通じた家庭との連携	2.7	2.7	・外部講師の方が授業で講話等される際は、仕事観や生き方などの視点も含め、話をいただいた。 ・キャリアパスポートを活用し、児童の各学期反省や行事等の振り返りを学校と家庭で共有し成長を見届けことができた。	3.7	3.5	○ 地域おこし協力隊の方を招いて、キャリア教育の実践をしてみてもよいのではないかと。
		2.7			3.3		
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICT機器の活用による興味・関心、意欲の伸長  ・国際化の進展に伴う外国語教育の充実	3.0	2.9	・デジタル教科書の活用は全学年で活用し、児童の学習理解につながっている。次年度、町の予算でA I ドリルの導入が決定しているので、積極的に活用していきたい。 ・タブレットの活用については、学年差がある状況である。児童アンケート2「タブレットを使った授業」については、昨年度より低下している。効果的な場面で活用できるようICT支援委員を活用しながら職員の研修にも力を入れ、授業改善につなげていきたい。 ・A L T訪問時には、計画的に外国語や外国語活動の授業を行うことができた。 ・11/27に5・6年生を対象に国際交流員のヤンヘジョンさんを招き、韓国の概要や文化について学び韓国の理解を深めることができた。	3.0	2.9	○ 電子黒板の設置場所は廊下側に置いている学級があるが、反射して見にくいようである。窓側に移動するとよい。
		2.8			2.7		
Ⅲ 教育を支える体制や環境の整備・充実							
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・O J T、メンター機能を活用した職員間の対話を重視 ・働き方改革推進プランによる具体的取組の推進と保護者への理解	3.0	3.2	・校内研修の中で初任者による道徳の模擬授業を行い、全職員が授業作りにかかわることができた。 ・夏季研修でミニ研修（OJT研修）を行い、教職員相互の学び合いを通して資質向上を図っている。 ・教職員による児童生徒への性暴力等の防止に関する周知徹底と図るとともに児童対象にアンケート調査を行っている。 ・朝の開錠時刻と退庁時刻の目安を示すとともに出退勤の管理を職員室のパソコンで行うことで意識付けを図っている。 ・コンプライアンス通信の配付と掲示、新聞の切り抜きの回覧、職員連絡会での話など、繰り返し話題にすることでコンプライアンス意識を高められるようにしている。	2.9	3.5	○ 若手の職員が多いので、OJTの充実が不可欠である。また、互いに授業を見せ合い、学び合う機会を設けることも考えていく。  ○ 学校評価のアンケート項目を精選し、負担軽減を図ってはどうか。
		3.5			3.8		
		3.2			3.8		
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・危機管理マニュアルの見直しと研修、非常時訓練の充実 ・事故等の防止をめざした保護者、地域との連携	3.5	3.4	・毎月1日に安全点検を実施し、修理が必要な箇所は定期的に修理を行うことができた。 ・危機管理マニュアルの見直しを行い、夏季研修にて全職員で共通理解をした。 ・交通安全教室や不審者対策避難訓練及び火災、地震・津波避難訓練等、学校安全への取組を計画的に行った。訓練等を通して児童自身が自分の身を守る意識を高めることができた。 ・避難訓練（風水害）5月実施し、保護者と協力し児童の引渡し訓練を行った。計画通りに、スムーズに児童の引渡しが行えた。 ・第1回東っ子育て協議会において、地域の方や保護者に通学路危険箇所の情報提供をお願いしたり、地域での児童の様子について情報をいただいたりして、学校と地域が協力して児童の安全を守る取組を行った。 ・献立表を個別に配布し、アレルギーへの確実な対応を心がけている。	4.0	3.8	○ 安全な登下校について ・学校での取組（登下校時の見守り、植込みの伐採、一時停止のライン）の継続 ・地域での取組（見守り活動の強化、青パトの活用、川南交番の見守り、自転車のマナー） ・職員の危機意識の継続と下校指導の徹底（門のところまで引率指導をする。全校での集団下校を定期的実施する。
		3.2			3.5		
		3.6			4.0		
Ⅳ 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進							
1	学校体育の推進に努める。 ・望ましい生活リズムの習慣化 ・基礎体力の向上 ・健康増進意識の高揚（う歯治療率80%以上）	3.0	3.0	・養護教諭部会で生活アンケートを実施しており、現状把握や今後の指導に活用していく。 ・東っ子パワーストレッチタイムを朝の会に全学年で実施した。 ・運動会では、走る競技（徒走・リレー）が中心だったので、走る事が苦手な児童のことも配慮して団技なども取り入れていくとよいのではないかと。 ・う歯治療については、保護者だけでなく、児童にも歯ブラシチェックや治療の話をする。 ・体力テストで落ち込んでいた種目の強化を行い、3月に希望者のみ再計測する。	3.2	3.1	○ 学力・体力向上について ・町内の力量のある先生を講師として招聘し、教師力の向上を図ってはどうか。 ・町の体育指導員の活用を図ってはどうか。
		2.9			2.9		
		3.0			3.0		